【読楽】037 「孝行文章ほか」を読む ＊読楽箇所＝本文全文

「孝行文章・手習肝要記・書筆策励記」の概要

■底本概要

孝行文章・手習肝要記［手習簡要記］・書筆策励記（久留米板）

【判型】大本3巻1冊。縦249粍。

【作者】山田得之進（山田重遠・南原書屋・士道）作・書。

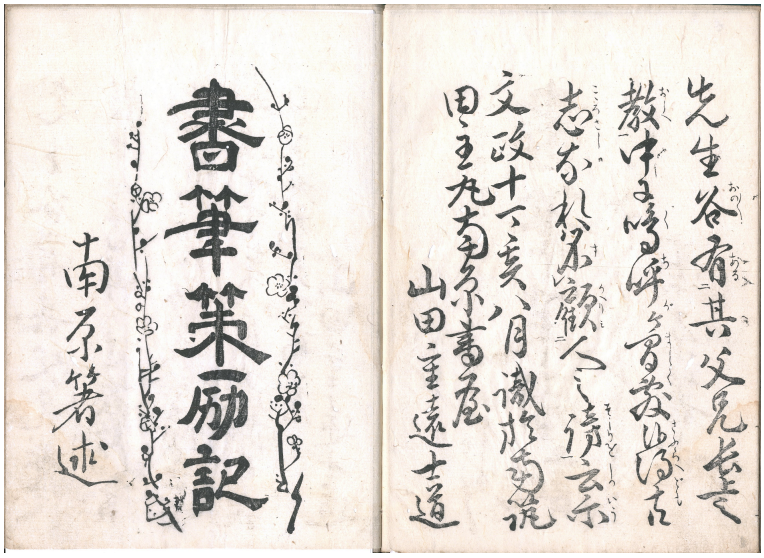
【年代等】収録順に文久3年2月刊。［久留米］山田得之進重遠蔵板（私家版）。文政10年8月作・刊（著者蔵板）。弘化5年春作・刊。門弟中蔵板。

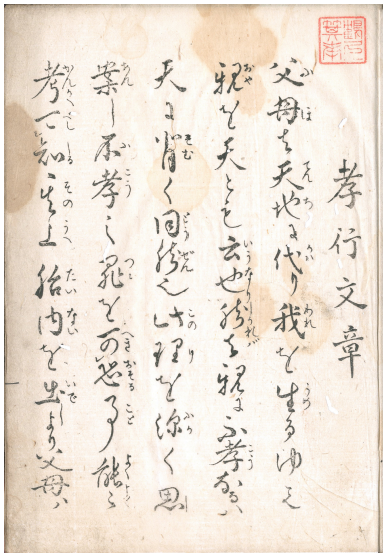
【備考】分類「往来物」。筑後国浮羽郡田主丸村（現・福岡県久留米市）の手習師匠、山田得之進が述作した往来物3編を合本したもの。いずれも私家版で、全2者は手習師匠による上梓で、最後の「書筆策励記」は「門弟中梓之」と記すように門人による出版。

「**孝行文章**」は、「父母は天地に代り我を生（ウメ）るゆえ、親を天とも云也。然者、親に不孝なるは、天に背く同然也…」と起筆して父母養育の高恩、努めるべき孝行の次第を述べた小文。

「**手習肝要記**」は、「抑、手習之肝要者、知人之為人之道、能家業を相立、主・親・師之恩之広大なるを不忘事第一也」と書き始め、まず、主・親・師の三恩を述べ、この三恩を忘れて我が侭や偽りをなすことが身を滅ぼす基となることから、このことを忘れないことが「手習之肝要」であり、山田得之進寺子屋（南原書屋）の掟であると諭した教訓。

「**書筆策励記**」も南原書屋門弟の心得を述べたもので、「書筆之修行、誰も存之事に候得共、於達者近者、日用帳面・紙面之得自由、見分書物、知五倫之道、通古今之事、弁世之中之道理、得修身・斉家、立身出世之基…」と書筆の徳を列挙する文書から書き始め、書筆が生涯の人間生活の根本であることを説き、手習子に対する親の慈悲、師匠の情け、また、教えざる師匠の科、習わせぬ親の誤り、習わぬ子の過ちにも触れた筆道教訓。





孝行文章 ＊文久3年2月刊

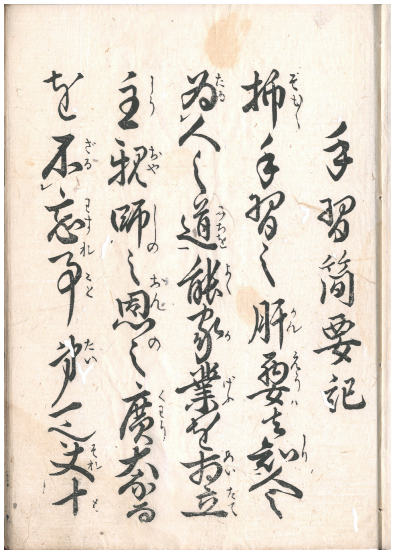
父母は天地に代り、我を生るゆえ、親を天とも云也。然者、親に不孝なるは天に背く同然也。此理を深く思案し、不孝之罪を可恐事、能々考可知。其上、胎内を出しより、父母は養育に心を尽し、苦労する事、冬は寒気を凌ぎ、夏は暑気をも不厭、日夜心を苦しめて、只、子の安からん事のみ、心に懸る也。生立て七ッ八ッにいたり、父母万端之心づかひ、兎角言語に述がたし。漸成人するにも、其子之善悪につけ、親之子をおもふ心いたらざる処なし。

されば、父母之恩之重き事、人間之出世に譬て謂ん方なし。此等之道理を弁知て、真実に親を深く敬、愛み、各身之分限に随ひ、米銭之費を不厭、手足之苦労をも不顧、只、親を安楽に悦しめんと深く心を尽すべし。

若又、親、無理・僻事にて腹立ありとも、子は必是を恨る事なく、顔付を潤しく、詞を和らげて、時之機嫌を繕、少しも不可違。或は事の変に臨んでは、仮初にも我身を殺て、親の無異*1安穏ならん事を願ふは、是則、天道之道にて、古へより定る人之作法也。されば、人間之身に不限、鳥類・畜類に到まで、親子之親み深き事、皆同然に見えたり。此道を弁ざれば、人として鳥類にも劣り、天罰遁がたかるべし。穴賢

右、誰人之書ぞや、此旨を信じ、能々孝行有度者也。
文久三年癸亥仲春、為童蒙、
南筑　山田得之進重遠梓之。

忠孝は思ひ出る今日尽すべし　あすというものたのまればこそ



手習肝要記［手習簡要記］ ＊文政10年8月作･刊

抑、手習之肝要者、知人之為人之道、能家業を相立、主・親・師之恩之広大なるを不忘事、第一也。

夫、十月、母之胎内を苦しめ、生れて三歳穢父母之懐、養育之恩幾許ぞや。従七八歳、読書等、令知物之条理師之恩も亦深し。養父母、安穏妻子、何処え行迚も、何之恐もなきよう治おかるゝは、是　御国恩也。

惣じて人之為人之道は、父子・君臣・夫婦・兄弟・朋友互に以尽真実、為肝要。皆、此因三恩所成也。

都而、嗣家、勤業、或者、快為遊楽等も亦、依此恩所成なれば、朝夕、考我身之大元、思太平之恩沢、且、三恩之重時者、報恩之心もおこり、無事安全也。

*1 無異＝異状がないこと。無事であること。

然に、及十五六歳、読書・筆算可也に成、漸、到親之安心之時、一旦之怒に傷其身、又者長　奢、溺酒色等、遂には亡　家、到無所置身、甚敷者、被行於罪候者は、元、忘三恩、因為我侭偽等なれば、以不忘之、為手習之肝要。

然共、此類大元者、則、親・師・頭立人之教諭届ぬよりの事にて、実に歎ヶ敷事ならずや。

然時者、三恩も数年之修行も徒なれば、為父兄人者、仮にも専勧善、為子弟人者、只知字、手書迄之事よりも、爰に深用心、生涯以真実為旨者、大に益あるべし。

重遠、実に不肖に候得共、手習ふ童の向後よろしかれかし、且は、為子孫之とおもひて、聊述此一言、南原書屋の手習肝要記と号する者也。尤、古今之先生、各有其父兄・長上之教中に嗚呼ヶ間敷候得共、志なれば不顧人之謗、云示。

文政十一年丁亥八月、識於南筑田主丸、南原書屋

山田重遠士道

書筆策励記　＊弘化5年春作・刊（門弟中蔵板）→ 翻字割愛。